

Braintech Library Report

ブレインテック・ライブラリー・レポート

Vol.3



学校法人東福岡学園 東福岡高等学校

規模の大きな学校図書館での利用に 応えられるシステムを求めてリプレイス

学校法人東福岡学園 東福岡高等学校

東福岡自彊館中学校

情報館の導入は自館に合った「規模感」と カスタマサポートの対応が決め手

学校法人福岡学園 福岡歯科大学 情報図書館

福岡看護大学 情報図書館

福岡医療短期大学 情報図書館分室

規模の大きな学校図書館での利用に 応えられるシステムを求めてリプレイス

学校法人東福岡学園 東福岡高等学校 東福岡自彊館中学校

学校法人東福岡学園は、福岡空港から地下鉄で博多駅に向かう途上の東比恵駅の近く、博多駅からも徒歩で訪れることができる場所にあります。ラグビーやサッカー、野球などの体育系部活動の強豪校として全国的に有名です。

実は、図書館もすごいんです

——校門を入ると緑豊かな前庭と迫力のある大きな校舎が目の前に現れ、思わず足を止めて眺めてしまいました。

本校は1955（昭和30）年に開校し、現在の新校舎は学園創立65周年、高校創立55周年にあたる2010（平成22）年に竣工したものです。高校だけで62クラス、2500人余が在籍する男子校です。

——62クラス！校舎が大きいのも納得です。図書館も広々としていて、四方を書架に囲まれています。圧迫感がないですね。

情報メディアセンターと呼んでいて、蔵書は約5万冊、閲覧席は200席以上あります。また、同じ学園敷地内に東福岡自彊館中学校がありますが、そちらにも学習図書室があります。中・高で資料の相互貸借を行っていて、情報館では分館管理機能を利用し、中学校の蔵書もあわせて管理しています。

——学校のウェブサイトのトップページに掲載されている写真も、ここで撮影されたものですね。



現在の新校舎に移転してから、ここは学校のアピールポイントの一つにもなっています。本校はスポーツが強いというイメージがあると思いますが、「文武両道」を掲げているとおり、図書館などの充実にも力を入れています。学校長の松原は、図書館の活用や読書推進にも熱心で、図書館をもっと利用してもらうためのアイデアを自ら色々と考えて実践しています。

校長先生が図書館の盛り上げ役

例えば、毎年発行している「先生オススのメ1冊!!」は今年で13冊目になりますが、以前は先生の名前が入った普通のリストでした。でも、本校は教職員の数もとても多いので、名前と推薦文だけではピンとこない場合もあるようで、生徒の反応もいま一つでした。これを、もっと興味を持ってもらえるものにしようと、校長と相談して表紙や中身を工夫し、数年前から教職員全員の顔写真と直筆コメント入りという現在の形になりました。——授業を持っている先生方だけでなく、司書さんも校長先生も事務の方も、皆さん同じように顔写真と直筆の推薦文が載っているんですね。

毎年これを作るのはなかなか大変ですが、出来上がると全校生徒に配布していて、生徒だけでなく保護者の方々にも人気があります。推薦してくれた先生に「この本読んだよ」と伝えに来る生徒もいるようで、先生方も喜んでくれています。



——表紙も工夫されたということですが、今年の表紙で『死ぬほど読書』の丹羽宇一郎さんを真似ていらっしゃるのには校長先生ご自身……？



※表紙画像の掲載・改変は許諾を受けたものです

はい。これも校長のアイデアです。中学校の校長と一緒に学生服を着て表紙に登場した年もありました(笑)。館内に「先生オススのメ1冊!!」で紹介した本を展示しているコーナーがありますが、いつも多くの本が貸出中になっています。

忙しくても、生徒への声掛けは 一人一人に何度でも

——こちらでは、図書委員会のほかに図書部というものもあるそうですね。

図書委員会は各クラスから2名ずつで124人います。人数は多いですが一人一人の図書委員の活動時間は限られているので、読書や図書館に興味を持つきっかけにもなるような活動を中心にしています。委員会とは別に部活動の一つ



学校法人東福岡学園東福岡高等学校
〒812-0007
福岡市博多区東比恵2丁目24番1号
TEL:092-411-3702
<http://higashifuoka.ed.jp>



として図書部があります。現在の在籍は5名。人数は少ないですが、自分たちで色々企画を考えて活動しているという生徒が多く、学園祭などでのイベント企画や他校との交流、蔵書点検や本の整備等の図書館業務の補助など、色々な活動をしています。昨年からは、「こんにちは情報メディアセンターです」という発行物の編集も図書部の生徒が行うようになり、生徒にも人気です。

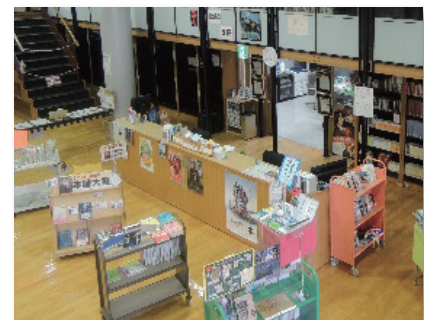
——勢いがあって、図書部の生徒さんの熱意が紙面から伝わってきます。でも、図書委員会と図書部の活動を支える司書のお二人は、大変ですね。

確かに、以前に比べて生徒の活動をサポートするような仕事は増えていて、その分、蔵書管理などの図書館業務を行う時間が十分には確保しにくくなっています。それでも、来館する生徒への声かけは意識して行うようになっています。利用



案内も配布していますが、カウンターに来たときにも「貸出延長もできるからね」などと利用規則について一声かけます。また、「ここでは静かにしようね」といった図書館利用上のルールを、その都度、一人一人に、何度でも伝えます。基本的なことですが、貸出延長ができることを知らずに延滞したことをきっかけに足が遠のいてしまうといった生徒もいるので、こうした声かけはとても大事だと考えています。

——館内には展示コーナーが色々ありますね。



図書館の分類順にきちんと本が並んでいるだけでは、読みたい本と出会えない生徒もいます。簡単に読めて面白い本をカウンターの前に展

示して、生徒に声をかけるきっかけを作ったり、分類に関係なく書店のような特集コーナーを作ったり。図書館の入り口から、机やブックトラックを使った展示で、奥の方への導線を作ることも意識してやっています。

近隣の情報館ユーザーから詳しく話を聞いてリプレイスを決めました

——資料のデータ作成や装備は外注ではなく図書館で行っているのですか？

はい。資料データ入力にはTOOLiを利用しています。図書だけでも年間1200冊ほど購入していて、選書も全て司書が行っています。最近の悩みは、移転してしばらく経ち、保管場所に余裕がなくなっていることです。



——2017年に情報館を導入していただきました。

以前は、大手メーカーの学校向け図書館システムを使っ

ていましたが、そのシステムが保守終了になり、今後どうするかについて検討しなければいけなくなりました。そんなとき、福岡の学校図書館の集まりで、色々な学校向け図書館システムのプレゼンを見る機会があり、そこで情報館を知りました。

——情報館を選ばれた理由はなんだったのでしょうか。

近隣の同じ私立の高校で情報館を導入していたので、司書さんから直接色々話を聞くことができたことが大きかったと思います。本校は規模が大きいこともあり、以前のシステムをとっても“使い込んで”いて、機能改善の要望を出すことなども多くありました。しかし、後継として紹介された同社のシステムは、後継といってもその時使っていたものと同等の機能があるわけではなく、本校には合わないのではないかという不安がありました。

——情報館を導入いただいてからも、色々ご質問やご要望を承っていて、とても熱心に情報館を使っていたいただいていることが感じられます。

まだ、「使いこなす」ところまでは全然たどりつけていません。前システムとの違いに少しずつ慣れてきているところ。もっと情報館を使いこなして業務を効率化できたらいいなと思います。他のユーザーがどのように情報館を使っているか興味があるので、情報館のセミナーやユーザー会にも行ってみたいのですが、福岡からはなかなか……。

——「オンデマンドセミナー」という出前形式のセミナーもあり、各地で開催していますので、福岡の学校図書館を中心に開催できたらいいですね。

はい、近隣のユーザー同士で情報交換する機会があったら嬉しいです。

——ここまで色々なお話をお伺いして、“文武両道”の一面を支える存在として、図書館や司書さんへの期待が大きかったです。情報館が、忙しいお二人の力になればと思います。

本日は、ありがとうございました。

システム構成	基本システム 4 台 館内用 OPAC2 台（ネットワーク）
蔵書数	図書約 5 万冊 (東福岡高等学校 情報メディアセンター分)
導入年	2017年

データは2018年10月現在のものです



情報館の導入は白館に合った「規模感」とカスタマサポートの対応が決め手

学校法人福岡学園 福岡歯科大学 情報図書館
福岡看護大学 情報図書館
福岡医療短期大学 情報図書館分室

学校法人福岡学園は福岡市の西部に位置し、福岡歯科大学、福岡医療短期大学、そして2017年に開学したばかりの福岡看護大学という3つの大学を擁しています。広いキャンパス内には福岡歯科大学医科歯科総合病院のほか、介護老人保健施設もあり、地域の医療・福祉を支えています。

はじめに、福岡歯科大学（以下、歯科大）の情報図書館をご案内いただきました。

電子ジャーナルの導入が進んでも来館者の多い図書館

——書棚にぎっしりと詰まった蔵書が圧巻です。洋書、洋雑誌の割合も高いようですね。

当館は、1973年4月に歯科大の開学と同時に開設されました。当初は附属病院4階にありましたが、その後1978年の本館建築の際に現在の本館9階に移りました。その後、1994年に開設された情報センターと機能を統合する形で、1996年の改組により「図書館」から「情報図書館」になりました。

蔵書は歯学専門図書・雑誌を中心に14万冊余を所蔵しており、このほかに福岡医療短期大学（以下、医療短大）の分室にも1万2千冊ほどあります。また、電子ジャーナルも80誌近く契約しています。歯学の分野では、西日本でも有



数の蔵書規模ですが、その半数近くが洋書・洋雑誌です。分類はNLMC（米国国立医学図書館分類）を使用しています。

——大学本館9階に位置し、同じフロアにはラーニングコモンズもあるということで、先生方や学生さんが利用しやすい環境ですね。

そうですね。閲覧室は400㎡ほどあり、88席の閲覧席を備えています。また、2010年度には、e-learningシステムの導入とあわせてラーニングコモンズを同じ本館9階に設置し、多様な学習の形に対応できるようにしました。電子

ジャーナルなど、来館しなくても利用できる資料も多いのですが、来館者は年間でのべ3万人近くあります。平日は毎日9時から20時まで、土曜日も9時から12時半まで開館しています。



歯科大学ということで、学生は定期試験（前期・中間・後期）以外にCBTやOSCEという臨床実習前の試験、最終ゴールの国家試験と、様々な試験があり、試験前は図書館の利用がとても多くなります。館内では学内無線LANを利用できるので、6台ある利用者用パソコン（1台は蔵書検索用）のほか、自分でパソコンを持ち込んで使用することもできます。

——窓の外に目を向けると、9階ということで素晴らしい眺めが。試験勉強に追われる学生さんも、この眺めでリフレッシュできそうですね。



はい、この眺望はこの図書館の自慢の一つです。晴れた日にはヤフオクドームや福岡タワーも見えますよ。

CSVのインポート、項目選択置換など情報館はデータの修正が思い通りに

——歯科大と医療短大では、2015年3月に情報館を導入していただきました。

本学では、情報館が初めての本格的な蔵書管理システム



福岡看護大学情報図書館



学校法人福岡学園
福岡歯科大学 情報図書館
福岡看護大学 情報図書館
福岡医療短期大学 情報図書館分室
〒814-0193
福岡県福岡市早良区田村2-15-1
TEL:092-801-0411(代)
<http://www.fdcnet.ac.jp/>



の導入となりましたが、以前よりシステム導入の必要性は認識しており、検討を重ねていました。そして、2014年度に文

部科学省の教育研究装置施設整備事業の補助を受け、ICカード対応の入退館システム、自動貸出返却機等と併せての導入となりました。

——システムとして情報館を選ばれた理由は何だったのでしょうか。

規模感が本学と合っていたことと、情報館を導入する前からブレインテックのBT-CATP（NACSISクライアントシステム）を使っていた関係でカスタマサポートを利用したことがあり、対応がしっかりしていると感じていたことです。

——ありがとうございます。初めてのシステム導入ということで、準備も大変だったのではないのでしょうか。

バーコードラベルが未貼付だった雑誌へのバーコード装備や、エクセルで管理していた蔵書データを情報館に投入するための準備作業には苦勞しました。特に、資料データでコードマスター化しなければいけない項目について、エクセル管理で入力していたものは表記ゆれが多くて大変でした。

でも、情報館の操作自体は1、2日程度のレクチャーでいたい理解できる直観的なユーザーインターフェイスなのでスタッフもすぐに慣れ、それほど苦勞はありませんでした。CSVのインポート機能や項目選択置換機能などを使って、データの修正も思い通りにできるのでとても便利です。

——システムを導入された効果はいかがですか。

他の図書館と比べれば数十年遅れた喜びかもしれませんが、カウンター業務も目録入力もとても楽になりました。全蔵書を対象とした蔵書点検が行えるようになりましたし、毎朝行う延滞者への連絡もメール一斉送信でとても簡単になりました。どれも当たり前のことなのでしょうけれど、本当に嬉しかったですね。OPACからの文献複写依頼や予約などのサービスを始めたことで、利用者の利便性も大きく向上しました。



続いて、同じ敷地内にあり、2017年に開学したばかりの看護大の情報図書館をご案内いただきました。

今後のニーズにも応えられるように少ないスタッフで維持していく工夫

——図書館は、校舎のエントランスホールに面したところに入口があり、歯科大同様、利用者が足を運びやすい場所ですね。

入館ゲートを入るとすぐ左がカウンターと自動貸出返却機で、右手はラーニングコモンズスペースになっています。他にも、館内には多くの閲覧机と4つのグループ学習室があり、よく利用されています。

——白を基調とした館内で、閲覧席などのアクセントカラーが映えて美しいですね。明るくてぬくもりの感じられる、居心地が良い図書館です。



歯科大の情報図書館と同様、館内では学内無線LANが利用可能で、設置している4台の利用者用パソコン以外にもノートパソコンやiPadなどを持ち込んで使うことができます。

分類には、NDC（日本十進分類）を採用しました。看護分野を中心に、専門資料の割合が多いので悩みましたが、当館の少ないスタッフで維持していくことを考慮し、周辺の看護大学の例なども参考にして決めました。

開学1年目ということで、今はまだ学生も1年生だけで、蔵書も少ないのですが、これから増えていくニーズに十分応えられる環境になっていると思います。もちろん、看護大の学生は歯科大情報図書館の蔵書を利用することもできます。



情報館の複数拠点（分館）管理機能で3つの館を一元管理

——看護大も、歯科大と医療短大で使用していた情報館を拡張する形でシステムを導入していただきましたが、いかがでしょうか。



3つの館を一つの情報館で管理することになるため、ブレインテックさんからのご提案で新しくできた複数拠点（分館）管理機能を使うことにしました。

——ですが、今のところ問題なく使っています。

この機能を使い始める前と比べ、休館日設定が別々に行えたり、他の館で借りた本をここで返却処理した時には警告が出たりするので、館ごとの業務切り分けがしやすく、わかりやすくなったのが良いですね。貸出統計も館ごとにできますよね？これから使うことになると思います。

最後に、情報館やブレインテックへの要望などをお伺いしました。

——最初に歯科大で情報館を導入いただいてからまだ数年ですが、OPACも業務システムも様々な機能を使いこなしていただいています。改善してほしい点などはありますか？

いえいえ、まだまだ使いこなせていない機能がたくさんあると感じています。

以前、九州地区の情報館を使っている大学図書館などが集まって開催した情報館のオンデマンドセミナーに参加しましたが、今度は、「こんな便利な機能がありますよ」と、情報館の便利な機能や技をたくさん紹介するセミナーをやってくださると嬉しいです。

機能改善については、細かい要望はたくさんありますが、その都度カスタマサポートの方に伝えています。改善というのとはちょっと違いますが、当館ではオンラインジャーナルのデータもOPACに登録しているので、OPAC経由でオンラインジャーナルにアクセスした数を統計としてとれるような機能があったらとても助かりますね。どうでしょう？



——ご提案ありがとうございます。検討させていただきます。

ここまでご案内いただき、大学が地域医療に貢献する多様な人材を育てる中で、大学図書館に求められる役割はとても大きいと感じました。私たちも、情報館を通じて少しでもそのお手伝いできればと思います。

これからも、忌憚ないご意見をよろしくお願いいたします。

※「歯」は歯科大、「看」は看護大、「医」は医療短大を表します。

システム構成	基本システム5台（歯2・看2・医1）、 自動貸出機2台（歯1・看1） OPAC4（学内公開） OPACサービス（プレミアム版）（外部公開） CAT5台（歯2・看2・医1）、 ILL3台（歯2・看1）、AUTO1台
蔵書数	（歯）図書13.6万冊、雑誌146タイトル（冊子＋電子ジャーナルの8タイトル含む）、電子ジャーナル83タイトル（冊子＋電子ジャーナルの8タイトル含む） （看）図書5千冊、雑誌39タイトル、電子ジャーナル4タイトル （医）図書1.2万冊、雑誌22タイトル、電子ジャーナル0タイトル
導入年	2015年

データは2018年10月現在のものです



図書館システム

情報館 ver.8

中小規模の図書館に最適な
ベストセラー図書館システム

導入してからも、二人三脚で。

✓ メーカーの直接サポートだから迅速対応

開発元で、図書館システムの専門メーカーである(株)ブレインテックが直接サポートサービスを行うので、対応が迅速。
お問い合わせやトラブル発生連絡受付後の初動対応の迅速さは、多くのユーザー様からご評価いただいています。

✓ シンプルで安定したシステム

全国の中・小規模図書館で選ばれている「情報館」は、安定稼働にも定評があります。さらに、専用のバックアップツールが無くても簡単にデータのバックアップができ、万が一の復旧も容易で迅速です。

✓ データのインポート・エクスポートが自在

システムで管理しているほとんどすべてのデータ(資料データ、利用者データ、各種マスターデータ等)がアプリケーション上で自由にテキスト形式でインポート・エクスポートできます。
また、統計・帳票データのエクスポートも可能です。

✓ 時代に合わせたバージョンアップ

図書館システムの導入は、ゴールではなくスタートです。5年後、10年後も安心して快適にご利用いただけるように、新OSへの対応やユーザー様からの要望を取り入れたバージョンアップを定期的にご提供しています。



OPAC公開を手軽に、簡単に

✓ 選べるOPAC

情報館のOPACは、サーバー設置型とクラウド型のどちらでもお客様に合ったものをお選びいただけます。

✓ 小規模図書館でも安心

クラウド型なら、サーバー不要。
システム担当者が常駐していない小規模図書館様でも、安心してOPAC公開が可能です。

図書館システムにご興味のある方は
弊社ショールームにお越しください

～ 情報館オープンデーのご案内 ～

毎月1回、「情報館」や「カーリルタッチ」などの最新の図書館システムの体験をすることができる展示会形式のイベントを開催しています

<https://braintech.co.jp/event/openday>



ブレインテック・ライブラリー・レポート Vol.3

発行日／2018年10月1日

発行元／株式会社ブレインテック

〒141-0022 東京都品川区東五反田1-7-6 藤和東五反田ビル 3F

TEL.03-3449-7261 <https://braintech.co.jp/>